

背景・課題

- 将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを産学官の共創(産学官共創)により構築するため、**産学官民などの多様なステークホルダーを巻き込み将来ビジョンを策定・共有し、その実現に向かって取り組むことが必要。**
- 経済が厳しい状況にある中、**国が重点的に支援し、大学等を中核とした組織対組織の本格的な共同研究開発の推進と環境づくりを進めることが重要。**
- 特に、地域における科学技術イノベーションが重要であることに鑑み、**イノベーション・エコシステムの形成を将来にわたり主導していく人材の育成が必要。**

事業内容

- 国連の持続可能な開発目標(SDGs)に基づく未来のありたい社会像を拠点ビジョン(地域共創分野では地域拠点ビジョン)として掲げ、その達成に向けた、①バックキャストによるイノベーションに資する研究開発と、②自立的・持続的な拠点形成が可能な産学官共創システムの構築**をパッケージで推進。
- 本事業が、「**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ**」において、**大学の強み・特色を伸ばすための中核的な事業に位置づけられていること等**を踏まえ、研究大学の抜本的な機能強化に向けて、大学の可能性を最大限引き出す**産学官共創拠点を拡充。**
- 【新規】(未来共創分野) 令和7年度からは新たに、地域の未来に向けて解決すべき課題の深掘り、課題解決プロセスの練り上げ、それらを踏まえた研究開発を重点支援**することで、①課題解決に寄与するグローバル水準の研究成果とイノベーションの創出、②産学官共創を牽引する研究者の育成及び拠点の機能強化を推進。

【経済財政運営と改革の基本方針2024(令和6年6月21日閣議決定)抄】

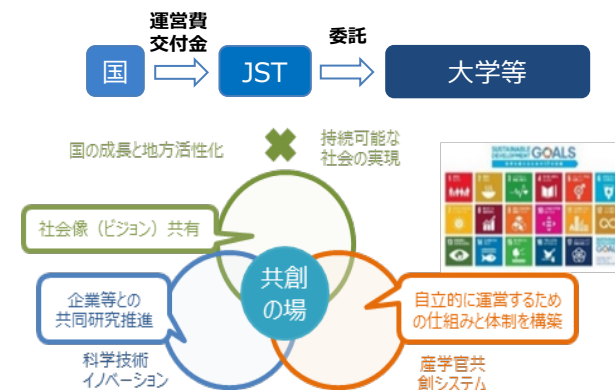
イノベーションの持続的な創出に向け、国際卓越研究大学制度による世界最高水準の研究大学の実現と**地域の中核・特色ある研究大学の機能強化に向けた取組を着実に進め**、これら研究大学群が我が国全体の研究力向上を牽引するとともに、戦略的な自律経営の下で、**優秀な若手研究者等をひき付ける研究環境の整備**や、知財ガバナンス改革を含む研究成果の展開力強化を行う取組を促進する。

【統合イノベーション戦略2024(令和6年6月4日閣議決定)抄】

2024年2月に改定された地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージを踏まえ、持続的な産学官連携プロジェクトの組成やマネジメント体制の構築や、**大学等を中核としたイノベーション創出と地域のニーズに応え、社会変革を行う人材育成に資する共創の場の形成を推進。**

【国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律案に対する附帯決議(衆・参)】

四 政府は、我が国の大学全体の研究力の底上げを図るため、個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自性を発揮し、研究大学として自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、国際卓越研究大学以外、特に地方の大学への支援に十分配慮することとし、**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの大幅拡充等により、十分な予算を確保すること。**



共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) 	地域共創分野・政策重点分野	育成型 目指すビジョンの構築や研究テーマの組成、研究推進体制整備等を実施。進捗管理、ネットワーキングや発展シナリオ等のハンズオン支援及び本格的な昇格審査を実施。(地域共創分野の継続のみ)	支援規模: 3千万円程度/年 支援期間: 2年度程度 支援件数: 6拠点程度 ※新規採択なし
		本格的型 ①大学等を中心とし、国・グローバルレベルの社会課題解決を目指す国際的水準の拠点(共創分野)、②国の重点戦略を踏まえた拠点(政策重点分野)、③地域大学等を中心とし、地方自治体、企業等とのパートナーシップによる、地域の社会課題解決や地域経済の発展を目的とした拠点(地域共創分野)について、価値創造のバックキャスト研究開発と持続的なシステム構築を推進。(育成型からの昇格のみ)	支援規模: ~4億円程度/年 支援期間: 最長10年度 支援件数: 35拠点程度 ※新規採択なし
	未来共創分野 【新規】	地域の未来に向けて解決すべき課題の深掘り、課題解決プロセスの練り上げ、産学官共創を牽引する独創的・挑戦的な若手研究者によるチーム構想の磨き上げ等を重点支援。 ※ 支援期間終了後、本格的な研究開発を想定	支援規模: 3.7千万円程度/年 支援期間: 2年度程度 支援件数: 3拠点程度

産学官連携の一体的推進型
イノベーションの形成

共創の場形成支援プログラム：未来共創分野【新設】

＜令和7年度採択（予定）＞
支援規模：37百万円程度/年
支援期間：2年度（令和8年度末まで）
支援件数：3拠点程度



背景・課題

- ・ 地域の大学等は、地域課題解決に資する地域特有のポテンシャルを活かした先端的な研究開発など、地域経済の活性化や魅力ある地域社会・文化形成に寄与する、中核的な存在。
- ・ 地域の未来に向けて将来の産学官共創を牽引する存在として、挑戦的な研究への意欲、高い適応力等を有した若手研究者の活躍を促進することが必要。将来の産学官共創拠点に向け、産学共創のタネとなる独創的・挑戦的な研究成果の創出や優秀な研究者の地域の大学等への呼び込み等も重要。

実施内容

【目的】

独創的・挑戦的な若手研究者が、地域の課題解決に寄与するグローバル水準の研究成果を創出し、地域の未来に向けた産学官共創拠点を構築する。

【事業のポイント】

■ **独創的・挑戦的な若手研究者（20～40代前半）がPL（プロジェクトリーダー）として拠点の責任者**となり、学内外の研究者や自治体・産業界を含む**プロジェクトチームを構築**。

■ 提案大学等が、地元企業や自治体等とともに、**地域課題を徹底的に深掘りし、研究計画をブラッシュアップ**。その際には戦略コンサルタントを活用するほか、JSTのPO（プログラムオフィサー）/アドバイザー等の助言を得る。

- ✓ PLが若手であることから、経験豊かなメンターを配置し、拠点のマネジメント方法をはじめとする助言を行う。
- ✓ 研究開発課題の具体化状況に応じて研究開発も実施。

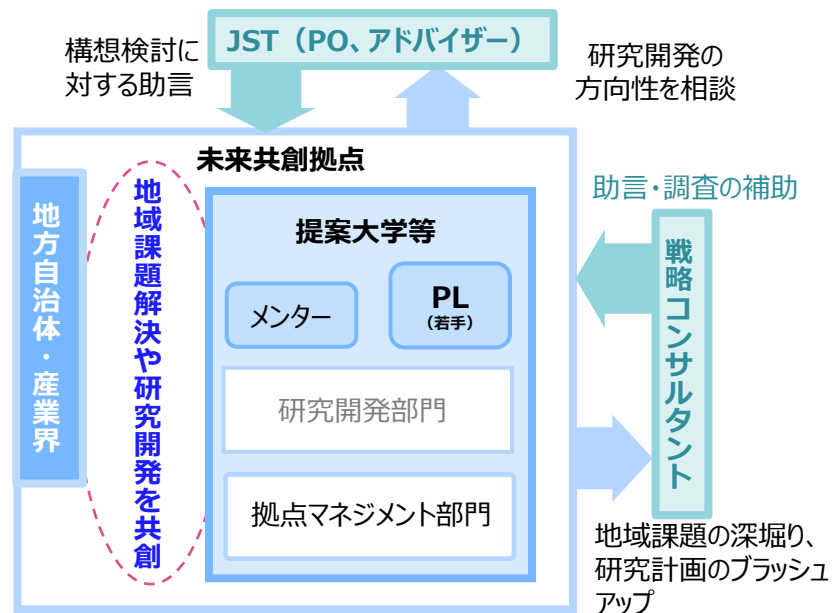
（2年度の支援後、昇格審査を経て、本格的な研究開発（5年度程度）を想定）

- ✓ 深掘り、ブラッシュアップした研究計画に基づき、若手研究者が課題解決に資する研究開発を本格的に実施。
- ✓ 提案大学等は、若手研究者を中心としたチームが研究に専念できる環境整備や産学官共創の支援を実施。

【独創的・挑戦的な若手研究者について】

- ・ 筆頭著者の論文は20代後半に最も多い
- ・ 新しい視点と柔軟性、挑戦的な研究への意欲、高い適応力、最新技術の活用力（データ解析やシミュレーション技術）、国際的なネットワークの構築力等の特徴を有する

【拠点体制】



記載内容は公募開始までに変更の可能性あり。